



# 2017年3月期 決算説明資料

---

2017年 5月15日 (月)

ウェーブロックホールディングス株式会社  
証券コード：7940  
(東証二部)

- 1. 2017年3月期 決算の概況 P. 3**
- 2. セグメント 概況 P.10**
- 3. 2018年3月期 見通し P.15**

# 2017年3月期 決算の概況

- 売上高は、前年比7.3%増で**過去最高**  
壁紙、金属調加飾フィルム、産業資材が牽引
- 営業利益は、退職給付費用の増加等があったものの、各セグメントで利益を積み上げ、前年比83.6%増益。アドバンステクノロジー事業が黒字に転換
- 減損損失あるも、当期純利益は11億円超に

(単位：百万円)

	2016年3月期 実績	2017年3月期 実績	増減額	増減率	4/10発表 業績見込み比
売上高	25,055	26,886	+1,830	+7.3%	+486
営業利益	740	1,359	+619	+83.6%	+159
経常利益	904	1,696	+791	+87.5%	+196
親会社株主に帰属する当期純利益	365	1,107	+742	+202.9%	+157
1株あたり 当期純利益(※)	33.14円	106.19円			

※発行済株式総数から自己株式等を控除した期中平均株式数により計算しています。  
期中平均株式数は、2016年3月期は11,036,911株、2017年3月期は10,434,087株です。

## 【インテリア】

- 売上高は、**前年比19.4%増**。  
内、(株)サンゲツ向け売上は61億円となり、前年比15.1%増
- 主力製造拠点である一関事業所の生産能力の増強、および、工場統合が完了
- 2017年7月改定予定の(株)サンゲツの量産見本帳の増点に尽力

## 【産業資材・包材】

- 売上高は、**前年比4.7%増**。
- 産業資材分野での建設・住宅関連需要や防煙垂れ壁用の高透明不燃シートが貢献。包材分野でのコンビニ向けは底堅い需要
- 利益面では、退職給付債務の算定に用いる割引率の低下に伴う退職給付費用の増加があったものの、原材料価格の低下や操業度の向上が大きく寄与し、営業利益は78百万円の増益を達成

## 【編織】

- 売上高は、**前年比2.4%増**。
- 主力のホームセンター向けの製商品の拡販に努め、春先～夏場の天候不順の逆風を夏以降にカバー
- 利益面では、中国の子会社大連嘉欧が増収。2013年に設立以来初めての黒字化を達成
- 国内工場での製造効率の改善等もあり、87百万円の増益

## 【アドバンステクノロジー】

- 売上高は、**前年比14.4%増**。
- 金属調加飾フィルムが自動車内装やスーツケース用途への拡販等により大きく伸張（前年比22.0%増）
- 医療用湿布基材は新薬故の販売制限の影響もあり伸び悩み
- 販売好調が利益に寄与、前年度に発生したクレーム補償費の減少もあり、営業利益は387百万円の利益改善

# セグメント別 売上高・営業利益

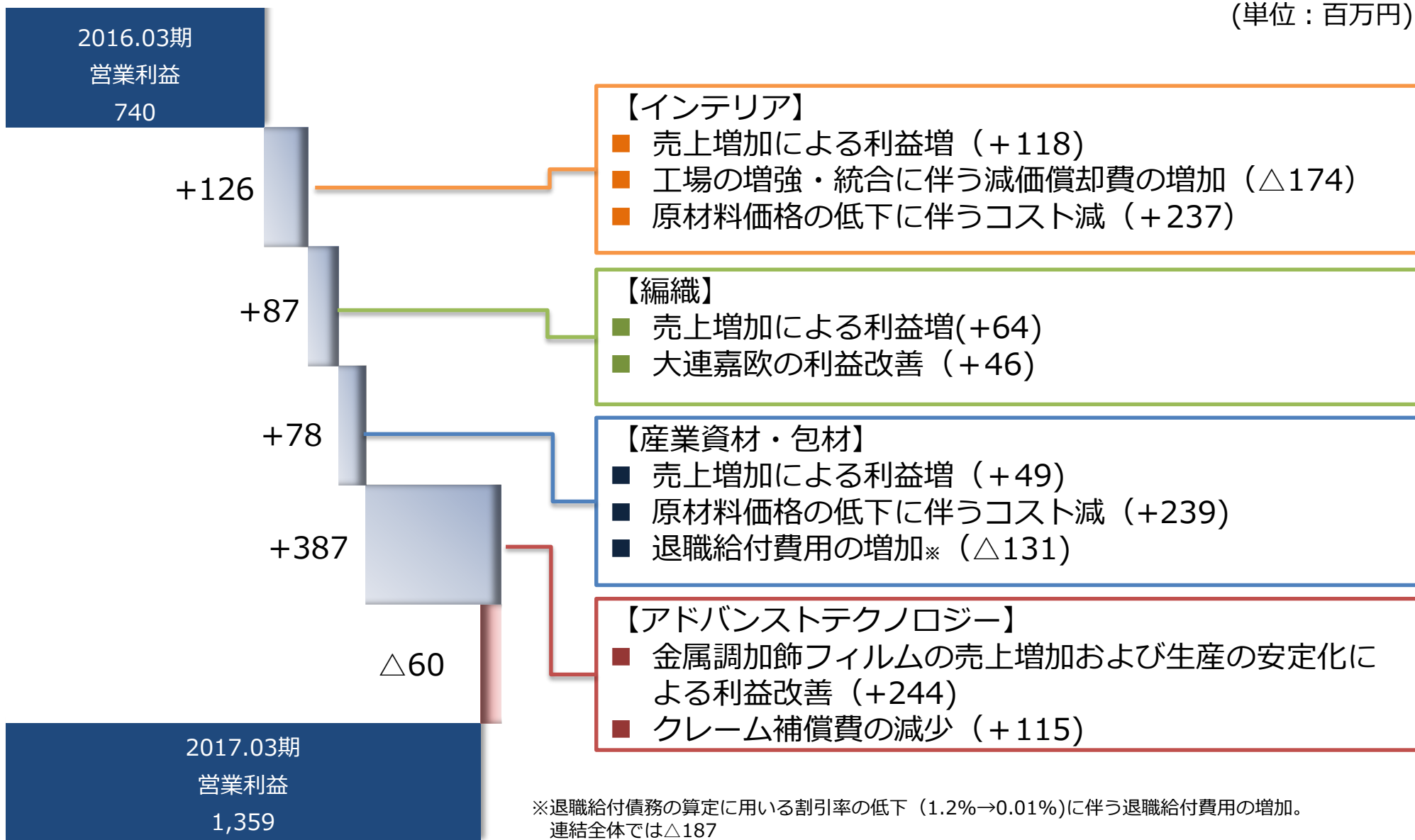
(単位：百万円)

売上高	2016年3月期	2017年3月期	増減	増減率	4/10発表 業績見込み比
インテリア	6,945	8,290	+1,345	+19.4%	+150
編織	8,175	8,374	+198	+2.4%	+64
産業資材・包材	8,698	9,103	+404	+4.7%	+103
アドバンステクノロジー	2,921	3,341	+420	+14.4%	+51
その他	△ 1,684	△ 2,224	△ 539	-	+115
<b>合計</b>	<b>25,055</b>	<b>26,886</b>	<b>+1,830</b>	<b>+7.3%</b>	<b>+486</b>

営業利益	2016年3月期	2017年3月期	増減	増減率	4/10発表 業績見込み比
インテリア	407	533	+126	+31.1%	
編織	577	664	+87	+15.1%	
産業資材・包材	237	315	+78	+32.8%	
アドバンステクノロジー	△ 174	213	+387	-	
その他	△ 307	△ 367	△ 60	-	
<b>合計</b>	<b>740</b>	<b>1,359</b>	<b>+619</b>	<b>+83.6%</b>	<b>+159</b>

# 営業利益増減要因（前年比）

(単位：百万円)



\*退職給付債務の算定に用いる割引率の低下 (1.2%→0.01%)に伴う退職給付費用の増加。  
連結全体では△187

# 連結貸借対照表

(単位：百万円)

資 産	2016年3月期	2017年3月期	増減	
<b>流 動 資 産</b>	15,111	15,240	+128	
現預金	1,773	2,062	+288	
営業債権	6,619	7,292	+672	売上の拡大に伴う増加
棚卸資産	6,187	5,350	△ 837	インテリアの製品在庫減638 編織の商品在庫減112
その他	530	535	+4	
<b>固 定 資 産</b>	13,626	13,301	△ 324	
有形無形固定資産	12,146	12,115	△ 30	
その他	1,480	1,186	△ 294	繰延税金資産の減少307
<b>資 産 合 計</b>	28,737	28,541	△ 196	

負 債 ・ 純 資 産	2016年3月期	2017年3月期	増減	
<b>負 債</b>	20,313	19,583	△ 729	
営業債務	3,350	3,787	+437	売上の拡大に伴う増加
有利子負債・社債	11,004	10,917	△ 86	
負ののれん	1,184	795	△ 388	負ののれんの償却
退職給付引当金	2,062	2,070	+7	
その他	2,711	2,011	△ 699	インテリアの設備支払手形の減少1,035
<b>純 資 産</b>	8,424	8,957	+533	
株主資本	8,341	8,729	+387	当期純利益の増加1,107 自己株式の取得△719
その他の包括利益他	83	228	+145	



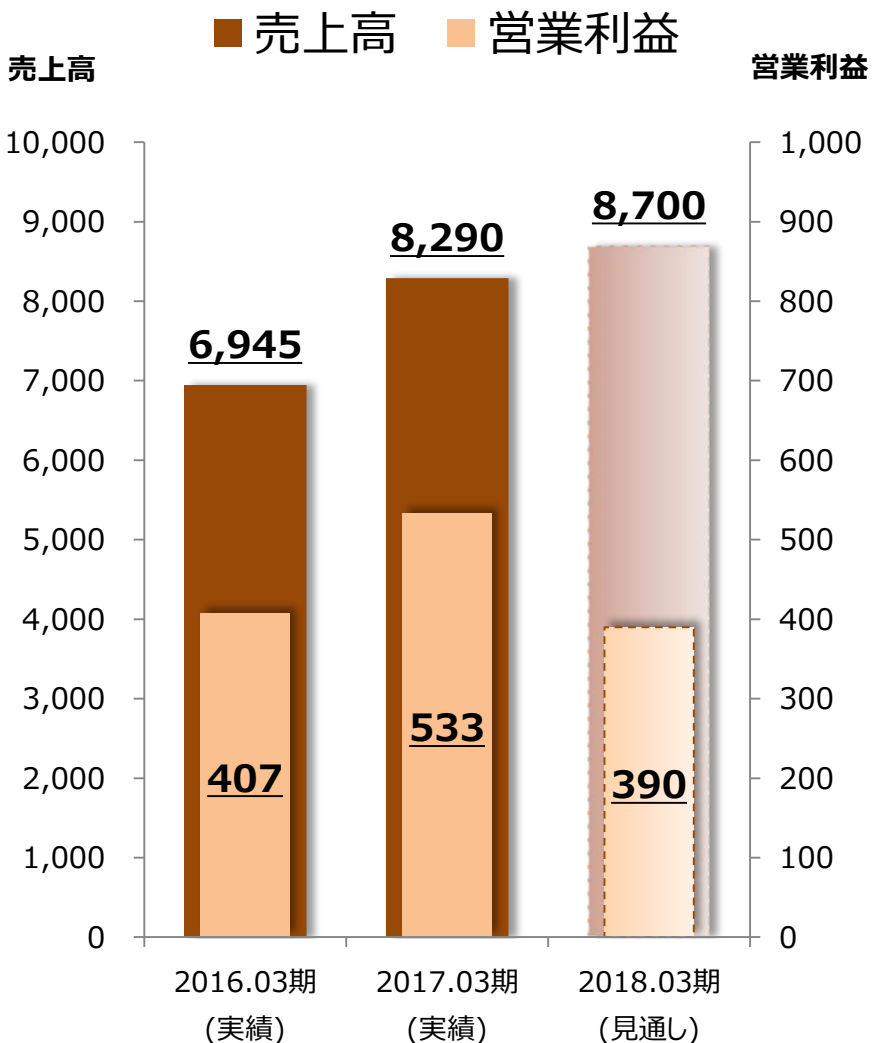
# キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	2016年3月期	2017年3月期	増減	概要
税金等調整前当期純利益	595	1,566	+971	
減価償却費	760	950	+189	インテリアをはじめ、各分野での設備投資により増加
負ののれん償却額	△ 388	△ 388	-	
投資有価証券売却損益	253	△ 16	△ 270	
減損損失	40	111	+71	
退職給付引当金	△ 48	202	+250	棚卸資産の減少837が主要因
運転資本増減	△ 185	583	+768	
法人税等支払額	△ 277	△ 258	+18	
その他	28	444	+415	グループ業容拡大により未払消費税が増加
<b>営業キャッシュ・フロー</b>	<b>779</b>	<b>3,195</b>	<b>+2,416</b>	
固定資産の収支	△ 1,033	△ 2,208	△ 1,175	インテリア設備資金の支払1,035
投資有価証券の収支	2,020	57	△ 1,963	
その他	△ 42	△ 10	+31	Entire株式売却
<b>投資キャッシュ・フロー</b>	<b>945</b>	<b>△ 2,161</b>	<b>△ 3,106</b>	
フリーキャッシュ・フロー	1,724	1,034	△ 689	
借入金・社債の収支	△ 1,873	△ 67	+1,805	
自己株式の収支	-	△ 719	△ 719	ファンドより自己株式を取得
その他	△ 27	△ 34	△ 7	
<b>財務キャッシュ・フロー</b>	<b>△ 1,900</b>	<b>△ 822</b>	<b>+1,078</b>	

# セグメント別 概況

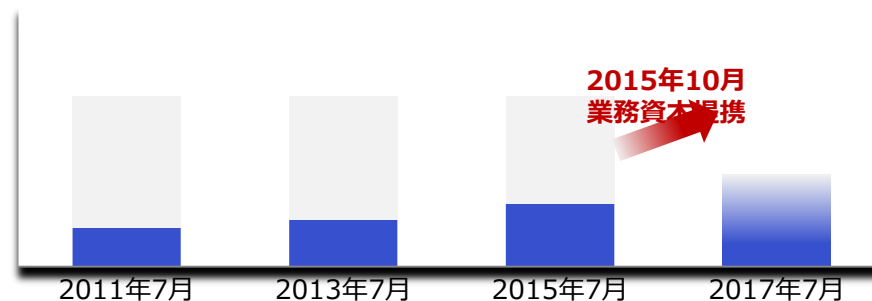
(単位：百万円)



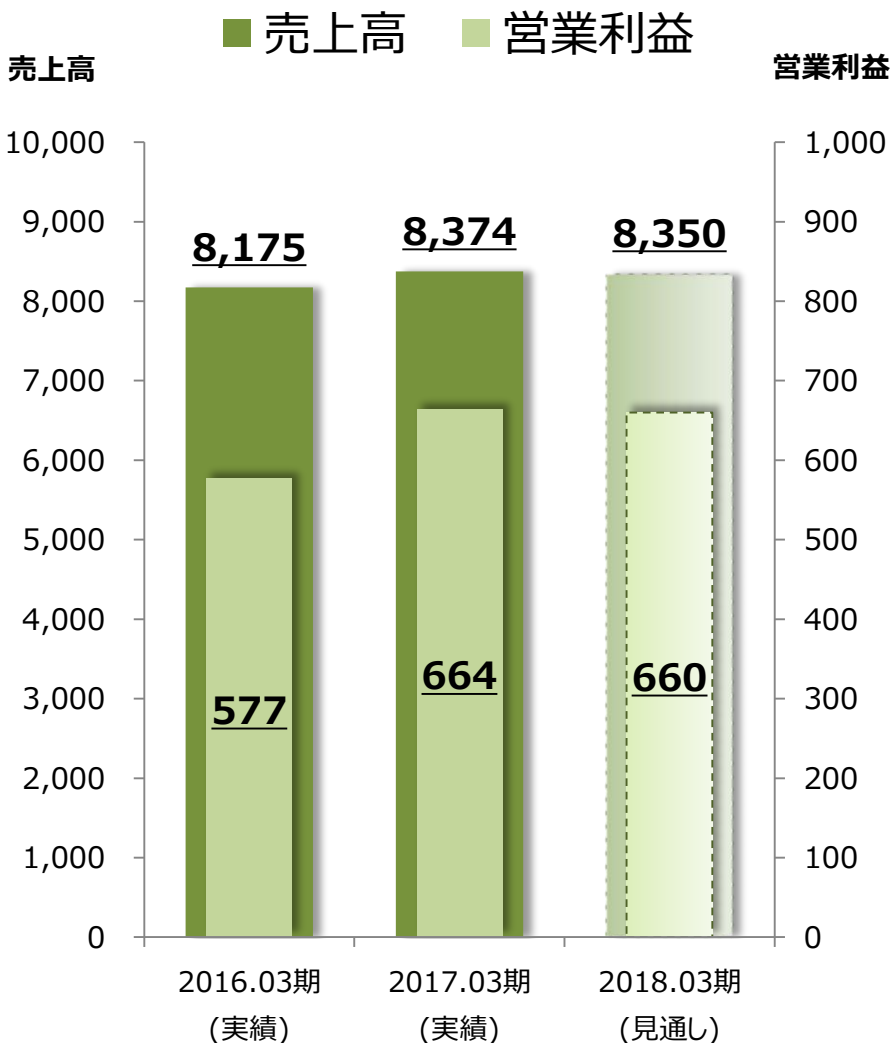
## 2018年3月期 見通し

- (株)サンゲツとの更なる関係強化が最優先課題
- (株)サンゲツの次期量産見本帳SPが2017年7月に発売。**増点**により、同社向け量産品について**2ケタの数量増**を見込む
- **ナフサ価格上昇**による、原材料費アップを想定
- 2017年2月に完了した一関工場の増設・統合に伴い償却負担が前期比で約80百万円増加
- 原材料費アップと償却費増を、数量増と製造効率向上により吸収を図るも減益を想定

サンゲツの量産見本帳における当社壁紙シェア



(単位：百万円)



## 2018年3月期 見通し

- 国内での安定的なシェアを維持
- 海外展開加速のための足場作り
- 大連嘉欧農業科技（中国生産子会社）の本格外販活動と、精誠物流（中国物流合併会社）の物流機能を生かした3PL等の総合的な顧客向けサービスの提案
- 売上高、営業利益ともに前期並みを想定

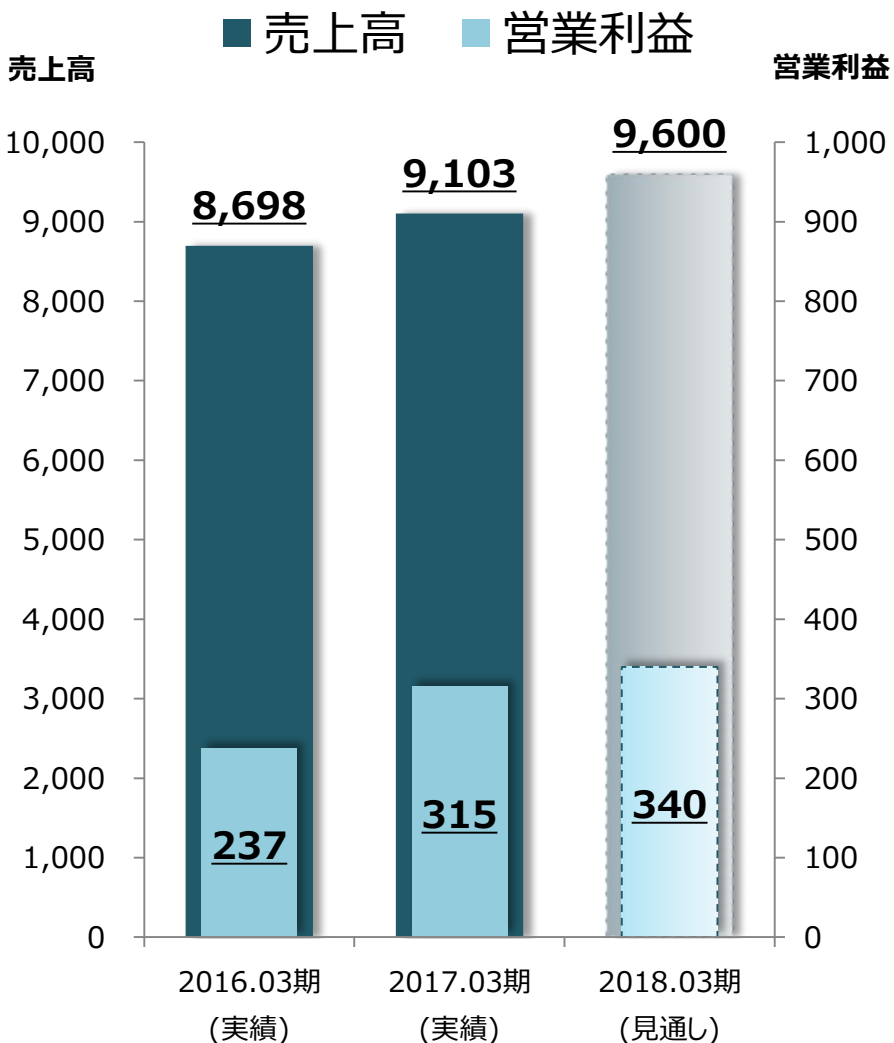


大連嘉欧農業科技



威海精誠物流

(単位：百万円)



## 2018年3月期 見通し

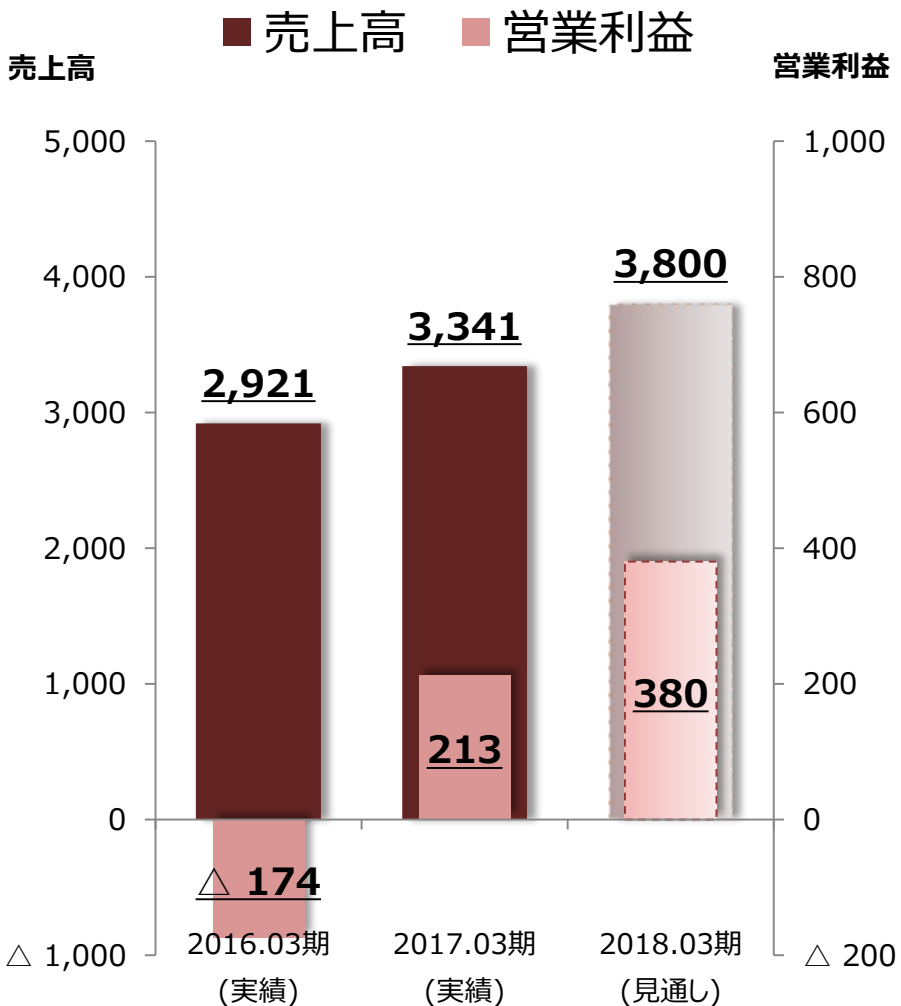
- 産業資材分野では、引続き建築関連市場の底堅い需要が見込まれるとともに、防煙垂れ壁等の戦略製品の拡販を図る
- 包材分野では、引続きコンビニ向けの底堅い需要を見込む
- **ナフサ価格上昇**により、原材料費の増加を想定。販売価格への転嫁を図りながら、コストダウン等で吸収を目指す

### 防煙垂れ壁



地震時等で飛散懸念のあるガラス製防煙垂れ壁を、樹脂+ガラスファイバ布製に置換。大手流通グループ等への販売拡大を目指す。

(単位：百万円)



## 2018年3月期 見通し

- 金属調加飾フィルムは、国内自動車向けがの既存モデルが順次エンドとなるも、中国、インド、ASEAN、北米向けが伸張。クレーム補償費の更なる減少、生産口スの減少、製造効率の向上による利益率アップを見込む
- 医療用湿布基材は新薬の数量制限が無くなり、数量増の見込み
- PMMA/PC2層シートは、車載関連分野の伸張に注力



# 2018年3月期 見通し

- 為替 : \$ 1 = 115円
- 原油価格(WTI) : \$ 55.0/バーレル

上記をベースに以下のナフサ価格で今期見通しを策定

ナフサ価格 : 43,000円/kL

(参考)

- 2017年3月期年間平均ナフサ価格 : 32,800円/kL
- 5月11日時点の各市場数値
  - ✓ 原油価格(WTI) : \$47.5/バーレル
  - ✓ 2017年1月～3月平均ナフサ価格※1 : 41,800円/kL
  - ✓ 7月上旬入りナフサ予想価格※2 : 約36,600円/kL

Notes :

※1 : 財務省統計国産ナフサ価格

※2 : \$1 = 114円、東京商品取引所7月上旬入り輸入ナフサ価格=\$440/MTを前提に計算



(単位：百万円)

	2017年3月期 (実績)	2018年3月期 (見通し)	増減額	増減率
<b>売上高</b>	<b>26,886</b>	<b>28,000</b>	<b>+1,113</b>	<b>+4.1%</b>
インテリア	8,290	8,700	+409	+4.9%
編織	8,374	8,350	△ 24	△0.3%
産業資材・包材	9,103	9,600	+496	+5.5%
アドバンステクノロジー	3,341	3,800	+458	+13.7%
その他・消去	△ 2,224	△ 2,450	△ 225	—
<b>営業利益</b>	<b>1,359</b>	<b>1,400</b>	<b>+40</b>	<b>+2.9%</b>
(営業利益率)	(5.1%)	(5.0%)		
インテリア	533	390	△ 143	△27.0%
編織	664	660	△ 4	△0.7%
産業資材・包材	315	340	+24	+7.6%
アドバンステクノロジー	213	380	+166	+78.4%
その他・消去	△ 367	△ 370	△ 2	—
<b>経常利益</b>	<b>1,696</b>	<b>1,750</b>	<b>+53</b>	<b>+3.2%</b>
<b>親会社株主に帰属する 当期純利益</b>	<b>1,107</b>	<b>1,250</b>	<b>+142</b>	<b>+12.8%</b>

## 基本方針

- 上場に伴い、株主への利益還元の基本方針を明確化
- 負ののれん償却額の影響を考慮した配当性向<sup>※1</sup>が20%から30%となることを目安に  
しつつ、安定的な配当を実行・維持することを基本方針とする

※1 負ののれん償却額の影響を考慮した配当性向  

$$= \frac{\text{配当総額}}{\text{（親会社株主に帰属する当期純利益 - 負ののれん償却額）}}$$

## 2018年3月期 配当見通し

- 第2四半期末、期末でそれぞれ1株あたり12円（通期24円）
- 年間業績見通しをベースに負ののれん償却額の影響を考慮すると配当性向は27.2%<sup>※2</sup>となる

基準日	1株あたり配当金（円）		
	第2四半期末	期 末	合 計
平成29年3月期 （実績）	—	—	—
平成30年3月期 （見通し）	12円	12円	24円

※2 発行済株式総数から自己株式数を控除して計算

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、将来に関する記述が含まれている場合がありますが、実際の業績は様々なリスクや不確定要素に左右され、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が、その他の目的で公開又は利用することはできません。